

令和7年度 新技術農業機械化推進研修（オンライン研修）

精密農業・自動化コースⅠ（ドローン・アシストスーツ）

令和7年9月5日（金）

（定員：30名）

（研修のねらい）

農村の高齢化、農家人口の減少等の課題に対する技術として、ロボット技術やICTを活用した超省力生産技術が注目されている。本コースでは、ドローンの農業分野への利用とアシストスーツについての理解を深めることを目標とする。

月 日	区分	研 修 項 目 等	主 な 内 容
9 / 5 （金）	午前	10:50～ 開講式・オリエンテーション 11:00～12:00 （仮）農業へのドローン利用の現状と課題 （講師：農研機構 農業環境研究部門（予定））	（仮）リモートセンシング技術を利用した農業の可能性について
	午後	13:15～14:45 （仮）ドローン（マルチローター）を利用した病虫害防除について （講師：未定） 15:00～16:15 （仮）農作業アシストスーツの説明及び装着について （講師：未定） 16:15～ 閉講式	（仮）無人航空機による空中散布における制度の現状と今後の動向、法規制関係、ドローン活用事例（茨城県） 飛行実演（動画） （仮）農業現場における中腰作業や重量物運搬作業等において、腰部への負担を軽減するアシストスーツ 実演（動画）

（注） 1：オンラインはWebexを使用して実施します。

2：事前に接続テストを実施します。

3：最少実施人数：3名

令和 7 年度 新技術農業機械化推進研修（オンライン研修）

精密農業・自動化コースⅡ

令和 8 年 1 月 3 0 日（金）

（定員：30 名）

（研修のねらい）

農村の高齢化、農家人口の減少等の課題に対する技術として、ロボット技術や ICT を活用した超省力生産技術が注目されています。これらの技術の現状と今後の普及のための課題等に対する理解を深めることを目標とする。

月 日	区分	研 修 項 目 等	主 な 内 容
1 / 30 （金）	午前	9:35～ 開講式 9:45～10:45 （仮）スマート農業の推進について （講師：農林水産省（予定）） 11:00～12:00 （仮）スマート農業新技術活用事例 （講師：未定）	（仮）スマート農業をめぐる最近の動き等 （仮）スマート農業に取り組んでいる事例の紹介等
	午後	13:15～14:15 （仮）農業車両の自動操舵システムの利用普及と技術動向 （講師：未定） 14:20～15:20 （仮）最新自動操舵システムを利用した農作業と基本操作 （講師：未定） 15:20～ 閉講式	（仮） 近年普及が広がってきている自動操舵システムの技術要素を、GNSS 技術を中心に詳しく解説し最新の利用普及状況などについて紹介 （仮） 最新の自動操舵システムを搭載したトラクターの作業及び基本操作について動画による説明。また、基地局設備の設置等についての説明

（注） 1：オンラインは Webex を使用して実施します。

2：事前に接続テストを実施します。

3：最少実施人数：3 名

令和7年度 新技術農業機械化推進研修

精密農業・自動化コースⅢ

令和8年3月6日（金）

（定員：10名）

（研修のねらい）

農村の高齢化、農家人口の減少等の課題に対する技術として、ロボット技術やICTを活用した超省力生産技術が注目されています。これらの技術の現状と今後の普及のための課題等に対する理解を深めることを目標とする。

（受付場所：水戸ほ場玄関）

月 日	区分	研 修 項 目 等	主 な 内 容	場 所
3 / 6 (金)	午前	9:45～ 開講式・オリエンテーション		水戸ほ場 第3研修室
		10:00～11:00 (仮) スマート農業の推進について(講義) (講師：農林水産省(予定))	(仮) スマート農業をめぐる最近の動き等	〃
		11:00～12:00 (仮) スマート農業新技術活用事例 (講師：未定)	(仮) スマート農業に取り組んでいる事例の紹介等	〃
	午後	13:00～14:00 (仮) 農業車両の自動操舵システムの利用普及と技術動向(講義) (講師：未定)	(仮) 近年普及が広がってきている自動操舵システムの技術要素を、GNSS技術を中心に詳しく解説し最新の利用普及状況などについて紹介	第3研修室
		14:00～15:30 (仮) 最新自動操舵システムを利用した農作業と基本操作(実演) (講師：未定)	(仮) 最新の自動操舵システムを搭載したトラクターの作業及び基本操作について説明。また、基地局設備の設置等について説明	実習ほ場
		15:45～ 閉講式		第3研修室

注：1 日程の一部を変更することがあります。

2 最少実施人数：3名

令和7年度 新技術農業機械化推進研修

加工・業務用野菜の省力化・低コスト化生産技術コース

令和7年12月4日（木）～12月5日（金）

（定員：10名）

（研修のねらい）

外食産業等で近年需要の増大している加工・業務用野菜の機械導入による低コスト化を目指す最新の技術や動向等を通じて、機械導入による低コスト化生産技術の普及促進を図ることを目標とする。

（受付場所：水戸ほ場玄関）

月 日	区分	研 修 項 目 等	主な内容	場 所
12/4 (木)	午前	10:45～ 開講式・オリエンテーション 11:00～12:00 (仮) 加工・業務用野菜をめぐる現状 (講師：農林水産省（予定）)	(仮) 加工・業務用野菜の現状、課題と今後の対応、講じようとしている施策等	水戸ほ場第3研修室 〃
	午後	13:00～14:00 (仮) 加工・業務用野菜の取組について (講師：未定) 14:00～15:00 (仮) ホウレンソウなど軟弱野菜の加工向け専用収穫機の開発と普及への取組み (講師：未定) 15:00～16:00 (仮) 加工向け専用収穫機の実演・実習 たまねぎ調整一貫体系の実習・実演 (講師：同上)	(仮) 国産野菜の需給・消費拡大のためのサプライチェーン・バリューチェーン構築を目指した取り組み等 (仮) 軟弱野菜の栽培規模拡大のネックとなっている収穫作業の時間・労力の低減を図る加工向け出荷専用収穫機の開発と普及への取組み (仮) 加工向け専用収穫機の効率的な使用法、たまねぎの根葉切り、仕上げ、繰り上げ、選別による省力化	第3研修室 〃 水田ほ場
12/5 (金)	午前	9:00～10:00 (仮) キャベツ機械化一貫体系と収穫機導入産地の取り組み事例 (講師：未定)	(仮) キャベツ収穫機を核とした播種・定植から収穫までの機械化一貫体系事例及び収穫機導入産地の取り組み事例	水戸ほ場第3研修室
		10:00～12:00 (仮) 新型キャベツ収穫機の実演・実習 (講師：同上)	(仮) 収穫機の効率的な使用法	水田ほ場
		12:00～ 閉講式		第3研修室

- 注： 1 日程の一部を変更することがあります。
2 作業着を持参して下さい。
3 最少実施人数：3名

令和7年度 農作業安全推進研修 安全指導者スキルアップ研修 総合コース

(令和7年11月11日(火)～ 11月14日(金))
(本コースは2日間(前半又は後半の2日間)のみの受講も可能です)

(定員：8名)

(研修のねらい)

本研修は、農作業安全対策を推進する地域の指導者が農業者研修教育施設における研修や安全講習会等の場において総合的な講義と実習を行うための知識、技術の習得を目標とする。

(受付場所：水戸ほ場玄関)

月 日	区分	研 修 項 目 等	主 な 内 容	場 所
11/11 (火)	午後	13:15～ 開講式・オリエンテーション		水戸ほ場 第3研修室
		13:30～14:00 農作業安全対策について (講師：農林水産省農産局)	農作業事故の実態と安全対策 (農林水産省での取り組み、現場活用での お願い)	〃
		14:00～16:00 リスクアセスメントの導入と効果 (講師：(一社)日本労働安全衛生コンサル タント会 顧問(元専務理事)後藤博俊)	農業以外の他産業で実施されているリス クアセスメント手法についての事例と効果 など	〃
11/12 (水)	午前	9:00～10:00 トラクターの基本的な安全運転実習	安全な発進、駐車、方向転換の操作手順	運転コース
		10:00～12:00 乗用型トラクターの傾斜面危険体験験 (講師：技術研修指導官等)	10度の斜面をサイズ・速度の異なるトラ クターで走行した場合の危険性比較と安全 確保の方法、15度(安全装置付)の斜面 での横転擬似体験、急坂(15度・20 度)を昇降する時の危険性比較	傾斜面
	午後	13:00～14:30 刈払機の操作と安全確保 (講師：技術研修指導官等)	事故事例紹介、安全な操作方法及び安全 確保等	練習ほ場
		14:30～16:00 チェンソーの操作と安全確保 (講師：技術研修指導官等)	事故事例紹介、安全な操作方法(伐採・ 目立て等)	〃
		16:00～閉講式(注4)		第3研修室 (注4)
	午前	8:50～ 開講式・オリエンテーション(注4)		第3研修室 (注4)
		9:15～10:30 作業機の着脱 (講師：技術研修指導官等)	安全で効率的なロータリ作業機等の着脱 方法	運転コース
		10:30～12:00 歩行型トラクターの操作と安全確保 (講師：技術研修指導官等)	事故事例紹介、安全な操作方法(耕うん 作業、トレーラ走行)	練習ほ場
11/13 (木)	午後	13:00～16:00 乗用型トラクター走行の安全確保 (乗用型トラクターでの畦越え、不整地 走行、傾斜地走行)	トラクターと作業機とのミスマッチによる 畦越え時の転倒危険性体験と安全確保の 方法、不整地走行でのハンドル操作の困難 性、ほ場の傾斜地での横方向への急傾斜体 験	練習ほ場
		高齢者体験 (講師：技術研修指導官等)	高齢者体験セット(ゴーグル、おもり、 ベルト等により80歳程度の運動能力)を 装着した状態によるトラクターの操作	〃
11/14 (金)	午前	9:00～12:00 農作業安全研究の最前線 (講師：農研機構 農業機械研究部門 システム安全工学研究領域 予防安全シ ステムグループ グループ長 積 栄)	農研機構農業機械研究部門の取組み方針 (乗用型トラクター・歩行型トラクター・ コンバイン・刈払機・意見交換)	第3研修室
		12:00～ 閉講式		〃

注：1 天候等により日程が変更になることがあります。

2 作業着、作業手袋を持参してください。

3 最少実施人数：3名

4 該当者がいる場合。

令和 7 年度 農作業安全推進研修

安全指導者スキルアップ研修 短期コース

令和 7 年 6 月 2 6 日（木）～ 6 月 2 7 日（金）

（定員：6 名）

（研修のねらい）

本研修は、農作業安全対策を推進する地域の指導者が農業者研修教育施設における研修や安全講習会等の場において必要な知識、技術の習得を目標とする。

（受付場所：水戸ほ場玄関）

月 日	区分	研 修 項 目 等	主 な 内 容	場 所
6 26 (木)	午前	9:00～ 開講式・オリエンテーション 9:20～12:00 トラクターの基本的な安全運転実習 10:00～12:00 乗用型トラクターの傾斜面・傾斜路危険体験 (講師：技術研修指導官等)	安全な発進、駐車、方向転換の操作手順 10度の斜面をサイズ・速度の異なるトラクターで走行した場合の危険性比較と安全確保の方法、15度（安全装置付）の斜面での横転疑似体験、急坂（15度・20度）を昇降する時の危険性比較	水戸ほ場 第3研修室 運転コース 傾斜面・路
	午後	13:00～14:30 歩行型トラクターの操作と安全確保 (講師：技術研修指導官等) 14:30～16:00 作業機の着脱 (講師：技術研修指導官等)	事象事例紹介、安全な操作方法（耕うん作業、トレーラ走行） 安全で効率的なロータリ作業機等の着脱方法	練習ほ場 運転コース
6 27 (金)	午前	9:15～12:00 トラクター作業機の安全確保 (プラウ耕起及び碎土・整地作業及びロータリ耕うん) (講師：技術研修指導官等) 12:00～ 閉講式	プラウによる耕起及び碎土・整地（パワーハロー等）作業、ロータリ耕法	水戸ほ場 練習ほ場 第3研修室

- 注： 1 天候等により日程が変更になることがあります。
2 作業着、作業手袋を持参してください。
3 最少実施人数：2 名

令和 7 年度 農作業安全推進研修

安全指導者スキルアップ研修 特定農機コース I

令和 7 年 9 月 1 8 日 (木)

(定員：10 名)

(研修のねらい)

本研修は、季節作業に応じた農業機械の実習を通じて、安全なほ場作業を行うために必要な知識、技術を習得することにより地域における安全指導者の育成を図ることを目標とする。

(受付場所：水戸ほ場玄関)

月 日	区分	研 修 項 目 等	主 な 内 容	場 所
9 / 18 (木)	午前	9:30～ 開講式・オリエンテーション 9:50～11:00 トラクターの基本的な安全運転 実習 11:00～12:00 乗用型トラクターの傾斜面危険 体験 (講師：技術研修指導官等)	安全な発進、駐車、方向変換の操作 手順 10 度、15 度（安全装置付）の斜面 でサイズ・速度の危険性比較、横転疑 似体験	水戸ほ場 第 3 研修 室 運転コー ス 傾斜面
	午後	13:00～15:30 コンバインの操作と安全確保 (収穫作業) (講師：技術研修指導官等) 15:45～ 閉講式	事故事例紹介、安全な操作方法（畦 越え、積み込み時の危険体験及び収穫 作業時の安全確認）	水田ほ場 第 3 研修 室

注： 1 天候等により日程が変更になることがあります。

2 作業着、作業手袋を持参してください。

3 最少実施人数：2 名

令和 7 年度 農作業安全推進研修

安全指導者スキルアップ研修 特定農機コースⅡ

令和 7 年 1 2 月 2 日（火）

（定員：6 名）

（研修のねらい）

本研修は、季節作業に応じた農業機械の実習を通じて、安全なほ場作業を行うために必要な知識、技術を習得することにより地域における安全指導者の育成を図ることを目標とする。

（受付場所：水戸ほ場玄関）

月 日	区分	研 修 項 目 等	主 な 内 容	場 所
1 2 / 2 (火)	午前	9:30～ 開講式・オリエンテーション 9:45～12:00 エンジン及びトラクタの構造・ 機能と整備実習 (講師：技術研修指導官等)	小型ガソリンエンジン、ディーゼルエンジン、トラクタの構造・機能説明及び日常的な点検整備	水戸ほ場 第 3 研修 室 機械教室
	午後	13:00～15:30 刈払機の安全操作に欠かせない 整備要点 (講師：技術研修指導官等)	刈払機の概要、刈刃、防護カバー、 ギヤー室等の整備実習	機械教室
		15:30～ 閉講式		第 3 研修 室

注： 1 天候等により日程が変更になることがあります。

2 作業着、作業手袋を持参してください。

3 最少実施人数：2 名

令和7年度 農作業安全推進研修

農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅰ

令和7年5月26日（月）

（定員：200名）

（研修のねらい）

本研修は、農業者に対する農作業安全に関する研修の講師（クロスコンプライアンス、付加研修、関係機関主催の研修等）、広報資料の作成・イベント開催、見廻り活動、日常業務に付加した意識啓発活動、事故情報の収集・報告等を担う、地域における農作業安全の推進役を育成することを目的とする。

月 日	区分	研修項目等	主 な 内 容
5 ／ 26 （月）	午前	9:20～ 9:30 開講式・オリエンテーション 9:30～9:40 ガイダンス （講師：農林水産省農産局技術普及課） 9:40～10:10 1. 農業安全推進の背景・目的と概要 （講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克） 10:20～11:20 2. 労働安全の基本（その1） （講師：労働安全コンサルタント 鈴木信生） 11:30～12:00 3. 労働安全の基本（その2） （一社）日本農業機械化協会 技術顧問 氣多 正）	本研修の趣旨、受講者の役割等の説明 農作業事故が引き起こすもの及び農作業事故の現状と課題 労働安全関係法令と安全活動、農作業安全に関する規範・指針・制度と農機の公道走行に関する法令 〃
	午後	13:15～14:15 4. 農作業事故の要因と対策 （講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子） 14:25～15:25 5. 農業機械等の安全な使い方 （講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克） 15:35～16:25 6. 農作業事故を防ぐためには （講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子） 16:25～16:40 総合質疑 16:40～ 閉講式	農作業事故調査の意義と方法及び様態別にみる事故事例・要因・対策 農業機械等の安全な使い方他 農業機械の安全装備、作業環境と安全管理体制の改善、農作業安全への取組事例 全体を通しての質疑応答

（注） 1：オンラインはWebexを使用して実施します。

2：事前に接続テストを実施します。

令和7年度 農作業安全推進研修

農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅱ

令和7年6月27日（金）

（定員：200名）

（研修のねらい）

本研修は、農業者に対する農作業安全に関する研修の講師（クロスコンプライアンス、付加研修、関係機関主催の研修等）、広報資料の作成・イベント開催、見廻り活動、日常業務に付加した意識啓発活動、事故情報の収集・報告等を担う、地域における農作業安全の推進役を育成することを目的とする。

月 日	区分	研修項目等	主 な 内 容
6 ／ 27 (金)	午前	9:20～ 9:30 開講式・オリエンテーション 9:30～9:40 ガイダンス (講師：農林水産省農産局技術普及課) 9:40～10:10 1. 農業安全推進の背景・目的と概要 (講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克) 10:20～11:20 2. 労働安全の基本（その1） (講師：労働安全コンサルタント 鈴木信生) 11:30～12:00 3. 労働安全の基本（その2） (一社)日本農業機械化協会 技術顧問 氣多 正)	本研修の趣旨、受講者の役割等の説明 農作業事故が引き起こすもの及び農作業事故の現状と課題 労働安全関係法令と安全活動、農作業安全に関する規範・指針・制度と農機の公道走行に関する法令 〃
	午後	13:15～14:15 4. 農作業事故の要因と対策 (講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子) 14:25～15:25 5. 農業機械等の安全な使い方 (講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克) 15:35～16:25 6. 農作業事故を防ぐためには (講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子) 16:25～16:40 総合質疑 16:40～ 閉講式	農作業事故調査の意義と方法及び様態別にみる事故事例・要因・対策 農業機械等の安全な使い方他 農業機械の安全装備、作業環境と安全管理体制の改善、農作業安全への取組事例 全体を通しての質疑応答

（注） 1：オンラインはWebexを使用して実施します。

2：事前に接続テストを実施します。

令和7年度 農作業安全推進研修

農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅲ

令和7年7月25日（金）

（定員：200名）

（研修のねらい）

本研修は、農業者に対する農作業安全に関する研修の講師（クロスコンプライアンス、付加研修、関係機関主催の研修等）、広報資料の作成・イベント開催、見廻り活動、日常業務に付加した意識啓発活動、事故情報の収集・報告等を担う、地域における農作業安全の推進役を育成することを目的とする。

月 日	区分	研修項目等	主 な 内 容
7 / 25 (金)	午前	9:20～ 9:30 開講式・オリエンテーション 9:30～9:40 ガイダンス (講師：農林水産省農産局技術普及課) 9:40～10:10 1. 農業安全推進の背景・目的と概要 (講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克) 10:20～11:20 2. 労働安全の基本（その1） (講師：労働安全コンサルタント 鈴木信生) 11:30～12:00 3. 労働安全の基本（その2） (一社)日本農業機械化協会 技術顧問 氣多 正)	本研修の趣旨、受講者の役割等の説明 農作業事故が引き起こすもの及び農作業事故の現状と課題 労働安全関係法令と安全活動、農作業安全に関する規範・指針・制度と農機の公道走行に関する法令 //
	午後	13:15～14:15 4. 農作業事故の要因と対策 (講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子) 14:25～15:25 5. 農業機械等の安全な使い方 (講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克) 15:35～16:25 6. 農作業事故を防ぐためには (講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子) 16:25～16:40 総合質疑 16:40～ 閉講式	農作業事故調査の意義と方法及び様態別にみる事故事例・要因・対策 農業機械等の安全な使い方他 農業機械の安全装備、作業環境と安全管理体制の改善、農作業安全への取組事例 全体を通しての質疑応答

（注） 1：オンラインはWebexを使用して実施します。

2：事前に接続テストを実施します。

令和7年度 農作業安全推進研修

農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅳ

令和7年8月25日（月）

（定員：200名）

（研修のねらい）

本研修は、農業者に対する農作業安全に関する研修の講師（クロスコンプライアンス、付加研修、関係機関主催の研修等）、広報資料の作成・イベント開催、見廻り活動、日常業務に付加した意識啓発活動、事故情報の収集・報告等を担う、地域における農作業安全の推進役を育成することを目的とする。

月 日	区分	研修項目等	主 な 内 容
8 ／ 25 （月）	午前	9:20～ 9:30 開講式・オリエンテーション 9:30～9:40 ガイダンス （講師：農林水産省農産局技術普及課） 9:40～10:10 1. 農業安全推進の背景・目的と概要 （講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克） 10:20～11:20 2. 労働安全の基本（その1） （講師：労働安全コンサルタント 鈴木信生） 11:30～12:00 3. 労働安全の基本（その2） （一社）日本農業機械化協会 技術顧問 氣多 正）	本研修の趣旨、受講者の役割等の説明 農作業事故が引き起こすもの及び農作業事故の現状と課題 労働安全関係法令と安全活動、農作業安全に関する規範・指針・制度と農機の公道走行に関する法令 〃
	午後	13:15～14:15 4. 農作業事故の要因と対策 （講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子） 14:25～15:25 5. 農業機械等の安全な使い方 （講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克） 15:35～16:25 6. 農作業事故を防ぐためには （講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子） 16:25～16:40 総合質疑 16:40～ 閉講式	農作業事故調査の意義と方法及び様態別にみる事故事例・要因・対策 農業機械等の安全な使い方他 農業機械の安全装備、作業環境と安全管理体制の改善、農作業安全への取組事例 全体を通しての質疑応答

（注） 1：オンラインはWebexを使用して実施します。

2：事前に接続テストを実施します。

令和7年度 農作業安全推進研修

農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅴ

令和7年10月20日（月）

（定員：200名）

（研修のねらい）

本研修は、農業者に対する農作業安全に関する研修の講師（クロスコンプライアンス、付加研修、関係機関主催の研修等）、広報資料の作成・イベント開催、見廻り活動、日常業務に付加した意識啓発活動、事故情報の収集・報告等を担う、地域における農作業安全の推進役を育成することを目的とする。

月 日	区分	研修項目等	主 な 内 容
10/20 （月）	午前	9:20～ 9:30 開講式・オリエンテーション 9:30～9:40 ガイダンス （講師：農林水産省農産局技術普及課） 9:40～10:10 1. 農業安全推進の背景・目的と概要 （講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克） 10:20～11:20 2. 労働安全の基本（その1） （講師：労働安全コンサルタント 鈴木信生） 11:30～12:00 3. 労働安全の基本（その2） （一社）日本農業機械化協会 技術顧問 氣多 正）	本研修の趣旨、受講者の役割等の説明 農作業事故が引き起こすもの及び農作業事故の現状と課題 労働安全関係法令と安全活動、農作業安全に関する規範・指針・制度と農機の公道走行に関する法令 〃
	午後	13:15～14:15 4. 農作業事故の要因と対策 （講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子） 14:25～15:25 5. 農業機械等の安全な使い方 （講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克） 15:35～16:25 6. 農作業事故を防ぐためには （講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子） 16:25～16:40 総合質疑 16:40～ 閉講式	農作業事故調査の意義と方法及び様態別にみる事故事例・要因・対策 農業機械等の安全な使い方他 農業機械の安全装備、作業環境と安全管理体制の改善、農作業安全への取組事例 全体を通しての質疑応答

（注） 1：オンラインはWebexを使用して実施します。

2：事前に接続テストを実施します。

令和7年度 農作業安全推進研修

農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅵ

令和7年11月17日（月）

（定員：200名）

（研修のねらい）

本研修は、農業者に対する農作業安全に関する研修の講師（クロスコンプライアンス、付加研修、関係機関主催の研修等）、広報資料の作成・イベント開催、見廻り活動、日常業務に付加した意識啓発活動、事故情報の収集・報告等を担う、地域における農作業安全の推進役を育成することを目的とする。

月 日	区分	研修項目等	主 な 内 容
11/17 (月)	午前	9:20～ 9:30 開講式・オリエンテーション 9:30～9:40 ガイダンス (講師：農林水産省農産局技術普及課) 9:40～10:10 1. 農業安全推進の背景・目的と概要 (講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克) 10:20～11:20 2. 労働安全の基本（その1） (講師：労働安全コンサルタント 鈴木信生) 11:30～12:00 3. 労働安全の基本（その2） (一社)日本農業機械化協会 技術顧問 氣多 正)	本研修の趣旨、受講者の役割等の説明 農作業事故が引き起こすもの及び農作業事故の現状と課題 労働安全関係法令と安全活動、農作業安全に関する規範・指針・制度と農機の公道走行に関する法令 //
	午後	13:15～14:15 4. 農作業事故の要因と対策 (講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子) 14:25～15:25 5. 農業機械等の安全な使い方 (講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克) 15:35～16:25 6. 農作業事故を防ぐためには (講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子) 16:25～16:40 総合質疑 16:40～ 閉講式	農作業事故調査の意義と方法及び様態別にみる事故事例・要因・対策 農業機械等の安全な使い方他 農業機械の安全装備、作業環境と安全管理体制の改善、農作業安全への取組事例 全体を通しての質疑応答

（注） 1：オンラインはWebexを使用して実施します。

2：事前に接続テストを実施します。

令和7年度 農作業安全推進研修

農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅶ

令和7年12月4日（木）

（定員：200名）

（研修のねらい）

本研修は、農業者に対する農作業安全に関する研修の講師（クロスコンプライアンス、付加研修、関係機関主催の研修等）、広報資料の作成・イベント開催、見廻り活動、日常業務に付加した意識啓発活動、事故情報の収集・報告等を担う、地域における農作業安全の推進役を育成することを目的とする。

月 日	区分	研修項目等	主 な 内 容
12/4 (木)	午前	9:20～ 9:30 開講式・オリエンテーション 9:30～9:40 ガイダンス （講師：農林水産省農産局技術普及課） 9:40～10:10 1. 農業安全推進の背景・目的と概要 （講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克） 10:20～11:20 2. 労働安全の基本（その1） （講師：労働安全コンサルタント 鈴木信生） 11:30～12:00 3. 労働安全の基本（その2） （一社）日本農業機械化協会 技術顧問 氣多 正）	本研修の趣旨、受講者の役割等の説明 農作業事故が引き起こすもの及び農作業事故の現状と課題 労働安全関係法令と安全活動、農作業安全に関する規範・指針・制度と農機の公道走行に関する法令 〃
	午後	13:15～14:15 4. 農作業事故の要因と対策 （講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子） 14:25～15:25 5. 農業機械等の安全な使い方 （講師：農研機構農業機械研究部門 安全検査部 主任研究員 志藤博克） 15:35～16:25 6. 農作業事故を防ぐためには （講師：農研機構農業機械研究部門 予防安全システムグループ長 積 栄、 同 グループ長補佐 紺屋朋子） 16:25～16:40 総合質疑 16:40～ 閉講式	農作業事故調査の意義と方法及び様態別にみる事故事例・要因・対策 農業機械等の安全な使い方他 農業機械の安全装備、作業環境と安全管理体制の改善、農作業安全への取組事例 全体を通しての質疑応答

（注） 1：オンラインはWebexを使用して実施します。

2：事前に接続テストを実施します。

令和7年度 農作業安全推進研修

安全指導者スキルアップ研修 対話型研修実施手法習得コース（オンライン）Ⅰ

令和7年6月20日（金）

（定員：20名）

（研修のねらい）

本研修は、農作業安全に関する指導者など、地域における農作業安全の推進を担う者を対象として、参加者同士が意見交換する形式で実施する対話型研修の実施手法について、実習等を通じて習得する。

月 日	区分	研 修 項 目 等	主 な 内 容
6 / 20 (金)	午前	9:30～ 9:45 開講式・オリエンテーション 9:50～11:20 対話型研修について（実施手法など） （講師：農研機構 農業機械研究部門 システム安全工学研究領域 予防安全システムグループ グループ長 積 栄、 グループ長補佐 紺屋朋子） 11:30～12:00 対話型研修に係る受講体験の注意点 （講師：同 上）	対話型研修の概要並びに事前準備、研修当日及び研修後における研修担当者の役割を習得 設定を確認するなど、受講体験の準備
	午後	13:15～15:15 対話型研修の受講体験 （講師：同 上） 15:25～16:25 対話型研修の実施のポイント （講師：同 上） 16:30～ 閉講式	仮説のテーマにより、対話型研修を受講生の立場から体験 受講体験を踏まえ、対話型研修の実施のポイントを習得

- 注： 1 オンラインはWebexを使用して実施します。
2 事前に接続テストを実施します。

令和7年度 農作業安全推進研修

安全指導者スキルアップ研修 対話型研修実施手法習得コース（オンライン）Ⅱ

令和7年12月12日（金）

（定員：20名）

（研修のねらい）

本研修は、農作業安全に関する指導者など、地域における農作業安全の推進を担う者を対象として、参加者同士が意見交換する形式で実施する対話型研修の実施手法について、実習等を通じて習得する。

月 日	区分	研 修 項 目 等	主 な 内 容
12 / 12 (金)	午前	9:30～ 9:45 開講式・オリエンテーション 9:50～11:20 対話型研修について（実施手法など） （講師：農研機構 農業機械研究部門 システム安全工学研究領域 予防安全システムグループ グループ長 積 栄、 グループ長補佐 紺屋朋子） 11:30～12:00 対話型研修に係る受講体験の注意点 （講師：同 上）	対話型研修の概要並びに事前準備、研修当日及び研修後における研修担当者の役割を習得 設定を確認するなど、受講体験の準備
	午後	13:15～15:15 対話型研修の受講体験 （講師：同 上） 15:25～16:25 対話型研修の実施のポイント （講師：同 上） 16:30～ 閉講式	仮説のテーマにより、対話型研修を受講生の立場から体験 受講体験を踏まえ、対話型研修の実施のポイントを習得

- 注： 1 オンラインはWebexを使用して実施します。
2 事前に接続テストを実施します。